

# 3.11.14:46のわたし ～仙台駅東口編～

その日は、近所を散歩中だった。仙台駅東口にある大きなスクリーンが消え、いつもの喧騒が消えた。大きく亀裂が入った広場のアスファルト。そこには歩けないほどたくさん人が集まっていた。

4歳の息子の手を握り、その場で立ちすくんだ。足がまだ震えている。不気味に見える空からは、雪まで降りだした。なんでこんなときに・・・寒い。息子にマクドナルドのスタッフの方がマフラーを貸してくれた。

大きな揺れが続く中、あちこちのビルで警報器が鳴り続けるのを聞きながら帰宅した。

変わり果てた自宅マンション、もうここには住めないかも。

途方に暮れながら、避難指定所の小学校の体育館へ息子と毛布を抱え移動した。しかし体育館はすでにいっぱいに入ることができず、あちこちの施設を訪ね、やっと避難先をみつけた。

明日からどうしたらいいのか、わからなくなった。ただ時間が過ぎてた。

- これ現実？  
- 夢？

また揺れた！さっきより大きく揺れるの？何が起こってるの？

避難所では、隣にいた女子学生が、息子と遊んでくれた。話をするうちに気が紛れた。そして彼女が話してくれた。

「私は、幼少期に阪神淡路を、引越して新潟県中越沖、仙台に来てからは、岩手宮城内陸地震と大震災を何度も経験してきたけれど、こうして生きています。だから今回も乗り越えられます。」

さすがの思いで「本当に？」と聞くと「生きているから、大丈夫です！」と言ってくれた。

目が覚めた。強くならなければ！

1年が経った。東口の広場の前を通るたび、あの日を昨日のこのように思い出す。

普段何気なく食べているものに感謝したこと。自分だけ温かいお風呂に浸かって申し訳ないと思ったこと。

私たちは日々、貴重な資源（電気）をみんなで分け合っているんだと実感したこと。

家族や友人、そして地域の人が支えてくれたこと。

ずっと忘れない。（なおみーる）



(写真5) ばななさんのご実家の中。カレンダーは3月11日のまま



(写真1) 長淵剛氏が紅白で歌った門脇小



(写真6) 日和山から見える石ノ森萬画館近辺



(写真2) 門脇TOTOショールーム跡地



(写真7) 石巻復興支援ネットワークで発売中！復興応援CD「やっぺす石巻」



(写真3) TOTOショールーム跡地から見える風景



写真4と同じ角度で撮影した震災直後の様子。道路をふさがれけきの山

約1年後  
→



(写真4) 石巻中央地区のばななさんのご実家

ちよっぴり  
「痛み分け」の旅。  
石巻に行ってきました。  
(chiyo) 2012/02/12

あれから一年経ち、仙台のほぼ中心部に暮らす私達の生活は、お陰様でほとんど元に戻りました。でも沿岸部の実際はどうなんだろう？と同じ県内に住んでいる人間としてとても気になる、先日、メンバーのばななさんの故郷である石巻に連れて行ってもらいました。

色々案内してもらい、ざっと見た感じ、だいぶ瓦礫が片付いたところもあるようですが、やはりまだまだ大変な状況だと思えました。仙台も「被災地」なのでしょうが、ともすれば「あの日」を忘れてしまいがちになります。でも石巻の復興はまさにこれだからが本番、という印象を受けました。

\*\*\*\*\*

まず向かったのは門脇(カドノワキ)地区。その日はとても風が強く、突き刺さるような寒さでした。ばななさん曰く「全部流されたからささぎるものがないからね」ということでした...

焼け焦げた門脇小(長淵剛氏が紅白で歌った場所)は、戦場に来たのかと思うような佇まいでした。(写真1)

震災後、石巻を訪れる人が数多く立ち寄り、門脇TOTOショールーム跡地にも向かいました。アスファルトには力強く復興するぞ！の文字が(写真2)

ざっと、沢山の命が息づいていたであろうこの地区。まだまだ瓦礫も片付いていない。復興にはこれからも沢山の支援が必要だと強く感じました。(写真3)

次に向かったのは、ばななさんのお家。彼女のご実家は中央地区にあります。津波に負けず、頑丈に建っているように見えるその建物でも、実は全壊されています。(写真4)ただ幸いなことにお一人で暮らされていたお父様はご無事で、今は、ばななさんの仙台のお家のそばにお住まいです。

お家の中の、カレンダーが「3月11日」のままの心が響きました。(写真5)あの日のまま、時が止まっている方はまだまだ沢山いるのでしょう。

ばななさんのご実家を後にし、私はランチタイムです。ばななさんが再開した地元のお店に連れて行ってくれました。なんでも石巻ではかなりの人気のお店だそうで、店内もほぼ満席。そこでハンバーグ定食をいただいてきました。このハンバーグが本当に初めて出会う味で、忘れられない美味しさでした。ぜひまた食べに来たいです。

その後駅前にある「石巻復興支援ネットワーク」さんの事務局や、湊地区の「明友館」さんにもお邪魔しました。いずれも石巻の復興支援、またママと子どもの支援

に力を入れてられているようで、どちらもそれぞれ形で頑張っているようにも応援したいと思いました。(こちらの詳しいレポートは、オヤタマブログをご覧ください)

支援ネットワークの方もおっしゃっていましたが、ちょうど一年ということでも、今後は支援は確実に先細りになるといってました。特にこれからは雇用の問題が深刻だといのがお話を伺って感じてました。

明友館(リーダーがばななさんの親戚なのですが)は非常にフレキシブルな支援を独自に行っている施設で、見習うべきところが本当に沢山あると思います。そちらではばななさんのご実家から救出された額縁などを受け取ってました。たくさんの方の額縁の中でも特に、オヤタマ第2号の「出せない手紙で紹介した津波で亡くなったお友達との、大切な写真を引き取りに行くというの、今回のばななさんの石巻訪問の目的でもありました。(写真6)

胸が詰まる思いも色々ありましたが、日和山から見る海はとても綺麗でした。明友館の千葉さんが言っていた、津波とともに海や川底の淀んだものが陸に上がった、という言葉思い出しました。その海を目に焼き付けて帰路につきました。(写真6)

\*\*\*\*\*

仙台市中心部はありがたいことに普通に生活できています。もちろん、心に傷を負った方は沢山いるとは思いますが、石巻はじめ沿岸地域に比べると物理的には本当に恵まれているなと思います。でも自分達の生活に戻ったからそれで

いいかといえは、私は違うのではないかと感じています。

大げさですが、私はいつも、亡くなったメンバーの鎌田さん一家を含め、二万の尊い御霊に見守られている気がしています。せめて生活が戻った内陸からおせっかいな痛み分けをなくして、まだまだ大変な地域が忘れられてしまわないように、と危惧しています。

石巻市は観光再開宣言もしたというところだし、「観光も立派な支援という」とも伺ったのでまた石巻に行きたいと思いました！

また、今回食べたランチもそうでしたが、やっぱり美味しいものが人を元気にさせる、来る人にも「また来て」と思わせると思うので、沿岸の方には食の復興を期待したいです！

最後になりますが、石巻復興支援ネットワークで発売中の復興応援CD、「やっぺす石巻」のリリースを(写真7)

「忘れないでね、忘れないでね、みんなまだはじまればかりです」と、ハッピーママは、内陸からできる支援を継続して模索していきたくと思っています。

※くるりの「石巻復興節」も3月12日に発売されました！ぜひ石巻はじめ沿岸地域を一緒に応援していきますよー！(chiyo)